

いわて自然公園特派員だより(岩手県自然保護課)

場所：八幡平の樹氷は融けはじめ

令和6年2月17日(土) 情報提供(文、写真) 岡野 治



霧氷林内のウサギ足跡(標高1400m付近)



八幡平山頂(積雪は例年より少ない)

好天の週末に恵まれ、八幡平の樹氷を見てきました。今年の樹氷は暖冬で痩せていましたが、加えて2日前の気温上昇と降雨により、樹氷は融けはじめていました。山頂西側の藤助森(標高1604m)から山頂(標高1614m)間では残っているものの、先端部などの枝葉が現れているものが多く、東側の陵雲荘付近まで下ると樹氷は落ちていました。初めて樹氷原に来たらしき方々からは「きれいだ」と歓声が上がっていましたが、何度も来ている方々は「こんなに早く落ちてしまって残念だ」という感想でした。



山頂付近の樹氷と岩手山



八幡沼畔の陵雲荘周囲(左奥に源太森)

天気が良かったので、岩手山、秋田駒ヶ岳、森吉山に加えて鳥海山や岩木山も綺麗に臨め、山頂から南～東側にあるガマ沼、メガネ沼、八幡沼を巡って戻りました。多くの方は秋田八幡平スキー場から山頂往復で戻っていますが、八幡平は山頂付近にある湖沼の凹凸地形と樹氷原の景観が素晴らしいので、視界がいい時は山頂周辺を散策することをおすすめします。



八幡沼から南西方向の樹氷原



山頂南側のメガネ沼(右奥に畚岳と秋田駒ヶ岳)